

町田市大地沢青少年センターの
あり方検討報告書
(案)

2019年●月

町田市子ども・子育て会議

目次

はじめに.....	1
第1章 大地沢青少年センターの現状	2
1 大地沢青少年センターあり方検討の経過	2
2 大地沢青少年センターの概要と現在の利用状況	3
第2章 大地沢青少年センターの課題	6
1 施設の認知度について	6
2 施設の魅力の充実	7
第3章 提言	11
おわりに.....	13
参考資料	
1 大地沢青少年センターアンケート調査票	
2 大地沢青少年センター郵送アンケート調査結果	
3 大地沢青少年センター窓口アンケート調査結果.....	
4 大地沢青少年センター郵送・窓口アンケート結果一覧	
5 他自治体ヒアリング調査結果	
6 事業展開構想（案）	

はじめに

大地沢青少年センターは、昭和53年（1978年）に青少年の健全育成と市民の福祉増進を図ることを目的として開設いたしました。現在40年が経過し、施設利用者の減少が進んでいます。集客力を高めるための検討をする必要があり、すでに庁内検討会や大地沢運営委員会では、民間活力の導入も視野に入れた運営の必要性が報告されています。

「町田市子ども・子育て会議」は2013年11月に、子ども・子育て支援に関して調査・審議をする市の附属機関として設置されました。今回2018年5月に、町田市長が「**作成中**」について」が本会議に諮問され、今後の施設について審議にあたり、より掘り下げた議論を行うため、少人数の「大地沢青少年センター検討部会」を立ち上げ、4回検討部会を開催いたしました。

また、施設の運営について理解を深めるために、町田市在住の13歳以上の方3,000人を対象とした市民アンケート調査*と、他自治体ヒアリング調査を実施いたしました。

市民の皆様のご協力による貴重なご意見を参考に、審議を重ね、このたび結果がまとまりましたので、ご報告をいたします。

*調査の詳細は巻末の参考資料をご覧ください。

2019年2月 日
町田市子ども・子育て会議

第 1 章

大地沢青少年センターの現状

1 大地沢青少年センターあり方検討の経過

大地沢青少年センターは野外活動を通じて青少年の健全な育成を図ること、市民の福祉増進を図ること等を目的に設置された「青少年施設」です。

昭和53年（1978年）に開設し、恵まれた自然環境の中で野外活動や宿泊等の取り組みを行い、現在40年が経過しています。

この40年の間に、少子高齢化や利用者ニーズの変化・多様化により、当施設の利用者減少が進んでおります。実際、「食事やアルコールの提供」、「日帰り入浴」、「大人向け事業」等、開設当初にはなかったご要望が、寄せられている状況です。

このような中、集客力を高めるためには、利用者ニーズに沿った、既存施設及び地域資源の活用方法等を含め、これからの当施設のあり方について検討する必要があります。

すでに、庁内検討会や大地沢運営委員会では、民間活力の導入も視野に入れた運営の必要性が報告されています。それらを踏まえ、2018年5月に町田市長からの諮問をうけ、今後の施設のあり方について審議をすることになりました。

2 大地沢青少年センターの概要と現在の利用状況

(1) 大地沢青少年センターについて

大地沢青少年センターは町田市西端にあり、町田市最高峰の草戸山（364m）をはじめとする山々に囲まれています。大地沢は相原共有の入会地として管理され、田畑の肥料、馬の飼料及び薪を取る場所として使われていました。また、町田市と相模原市の市境を流れ、江ノ島を河口とする境川の源流域でもあります。

周辺には、ムササビやリス、イノシシなどのほ乳類をはじめ、ホタルや沢ガニ、野鳥など様々な野生動物が生息しており、いろいろな野草を見ることができます。敷地内には、野外炊事場やキャビン、テントサイトなどのキャンプ施設の他、本館内には宿泊室や音楽演奏ができるホールもあり、自然を楽しむことができます。

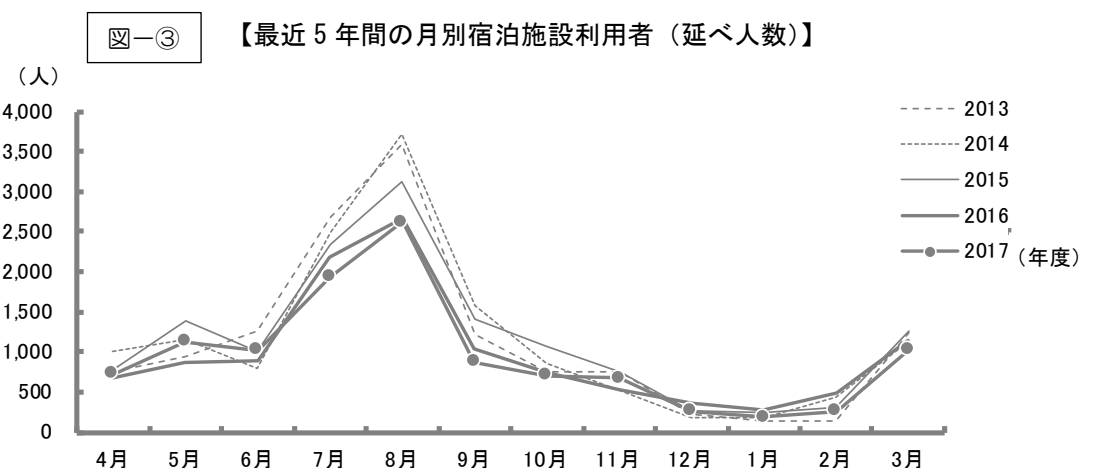
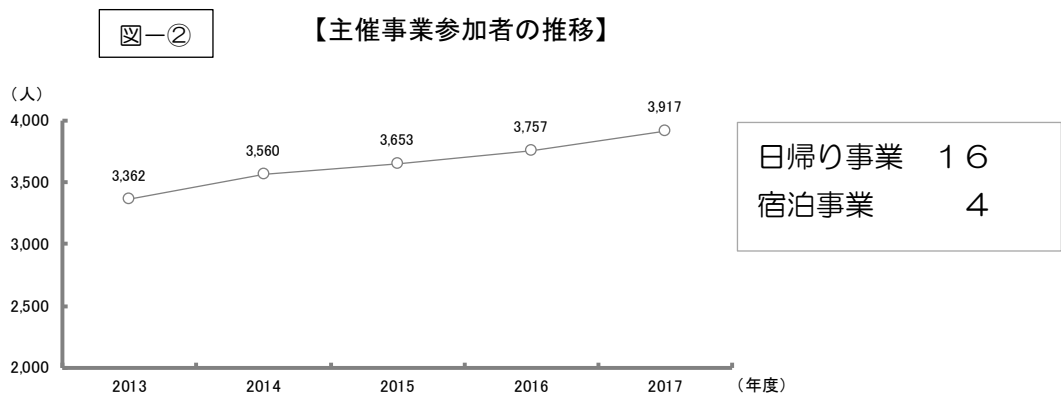
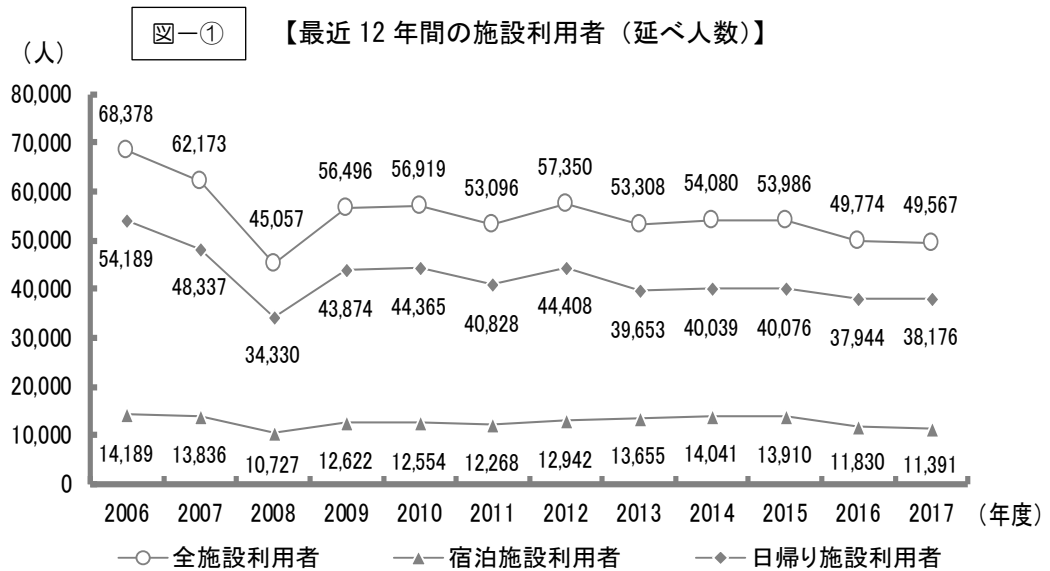
しかし、豊かな自然に恵まれている一方、周辺は傾斜が急な山林に囲まれた環境となっており、2015年6月には、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に規定する「警戒区域」に指定され、うち一部は「特別警戒区域」となっています。そのため、施設を新しく建てるためには、土砂災害が起きないように（山を全部コンクリートで固めるなどの工事）しなければいけません。それでは、大地沢の魅力が損なわれてしまうため、現状の建物（改修は行える）を活かした検討が必要となります。



※当センター周辺の気象情報に地理的状況を加味した土砂災害警戒情報システムを開発し、2017年9月から運用しております。このシステムにより早期避難の実施など、より安全な施設運営を行うことができるようになりました。

(2) 利用状況について

利用者数については全体として減少の傾向にあります（図-①）。しかし、日帰り施設利用者については、2017年度は増加に転じており、また、主催事業（プログラム）の参加者は増加傾向にあります（図-②）。年間でみると、3月から11月が繁忙期、12月から2月が閑散期と屋外で過ごせる季節に利用が集中しています（図-③）。

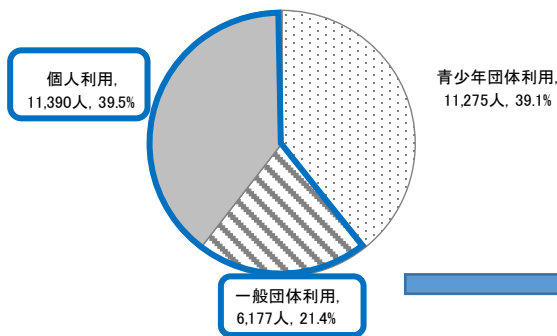


(3) 利用者の利用形態と年齢構成

大地沢青少年センターは「青少年施設」ですが、実際は青少年団体以外の利用が約60%あります(図一④)。青少年団体以外の年齢構成は、18歳以上の大人が約65%と、多数を占めています(図一⑤)。このことから、「青少年施設」でありながら、実際に施設を利用しているのは、個人や18歳以上の大人が多いことが分かります。また、宿泊利用者居住地の約半数は、町田市外の方が利用しています(図一⑥)。

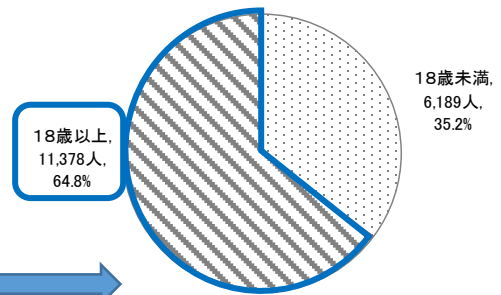
図一④

【利用者の属性別内訳(実人数)】



図一⑤

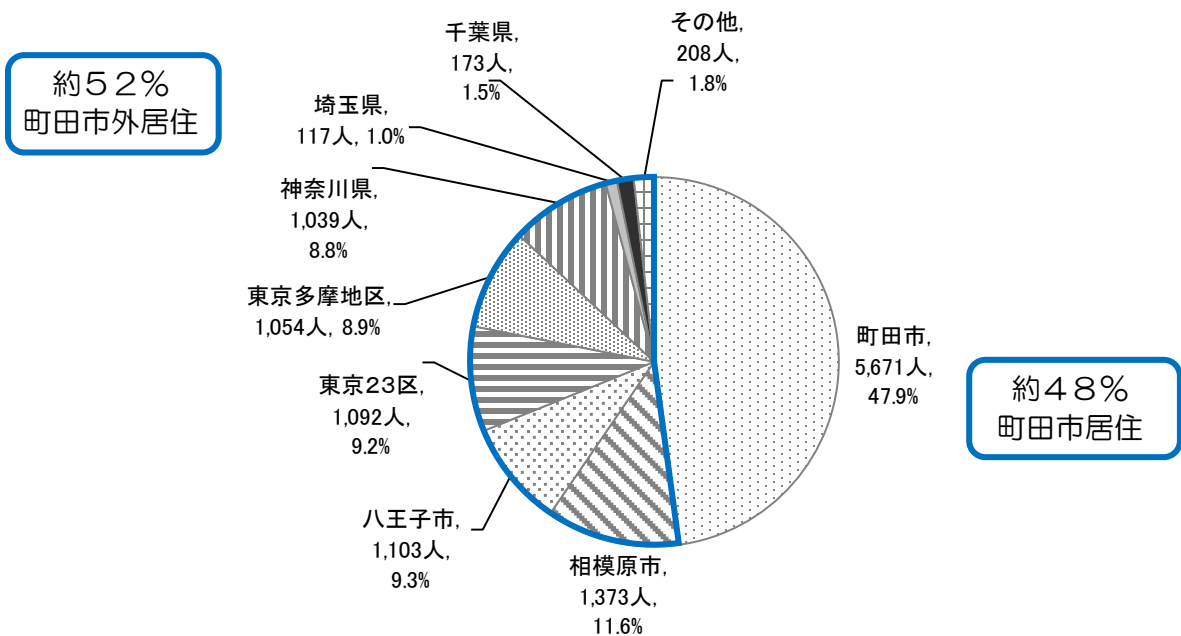
【個人利用と一般団体利用の年齢層内訳(実人数)】



- 個人：個人や家族、友人同士など
- 一般団体：趣味のサークルなど
(例) 太鼓演奏、ダンスサークル、合唱同好会など
- 青少年団体：18歳未満が70%以上で、青少年団体登録を行っている団体
(例) 保育園、幼稚園、小/中学校、ボーイ/ガールスカウト、子ども会、学童保育クラブなど

図一⑥

【2016年度 宿泊利用者地域別居住地内訳】



第2章

大地沢青少年センターの課題

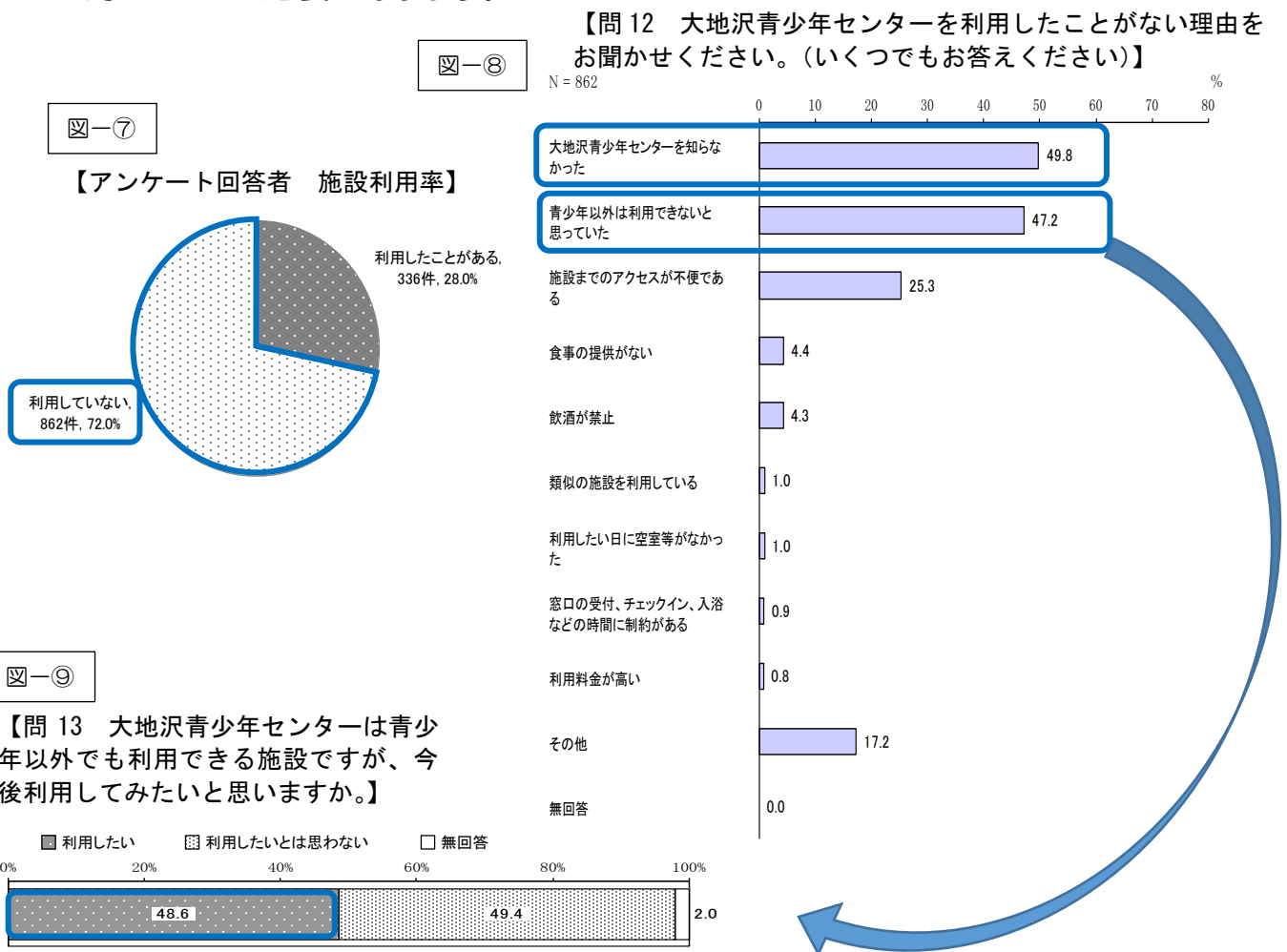
【集客力を高めるために】

1 施設の認知度について

前述の「利用者の利用形態と年齢構成」(P5)から、「青少年施設」でありながら、実際の利用者は、青少年団体以外の大人や個人、また、市外の人も多く利用しています。

一方で、町田市民を対象とした郵送アンケート調査※に回答した人の約7割が利用したことがなく(図一⑦)、その理由の約5割が「大地沢青少年センターを知らなかった」「青少年以外は利用できないと思っていた」となっており(図一⑧)、大地沢青少年センターが十分に周知されていないことが伺えます。さらに、「青少年以外は利用できないと思っていた」と回答した人に対して、利用意向を問うと約半数の方が「利用したい」と回答しています(図一⑨)。

このことから、幅広い世代に、子どもから大人まで利用できる施設ということを知周していく必要があります。



※P〇〇「町田市大地沢青少年センターアンケート調査結果(仮)」参照(調査対象者:町田市在住の13歳以上の方3,000人を無作為抽出。有効回答1,198通で回収率39,9%)

2 施設の魅力の充実

(1) 事業展開・プログラムの充実について

現状利用者数が減少している中で、「利用状況について」(P4)をみると、日帰り施設利用や、主催事業(プログラム)の参加者は増えています。

また、郵送アンケート調査からは、サービス利用の意向(図-⑩・⑪)として、「日帰り入浴」「冷暖房や浴室などが完備されている宿泊施設(食事つき)」の施設利用面での意向が高く、さらに、「地元野菜や名産等の直売コーナー」「てぶらでバーベキュー」が高くなっています。年齢別では、「冷暖房や浴室などが完備されている宿泊施設(食事つき)」の割合が、年代が上がるにつれて高くなる傾向があります。

図-⑩ 【問 14 大地沢青少年センターに、どのようなサービスがあれば立ち寄ってみたいですか。(1つお答えください)】

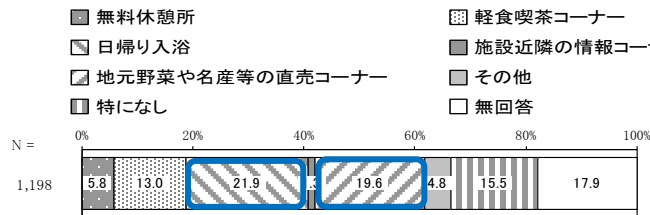
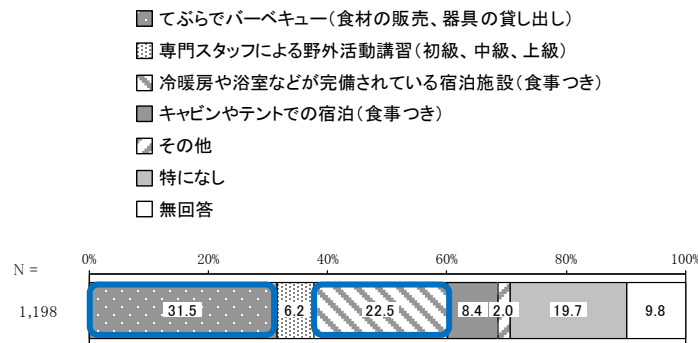
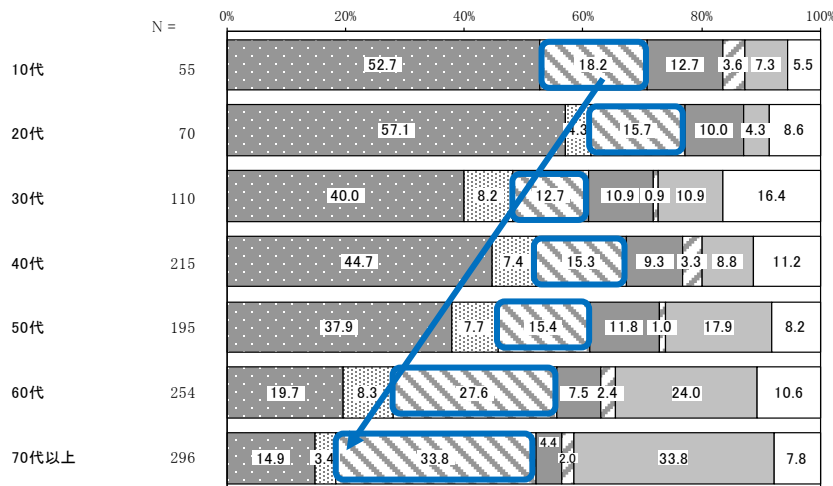


図-⑪ 【問 15 大地沢青少年センターに、予約制で下記のサービスがあった場合、どれを利用してみたいですか。(1つお答えください)】

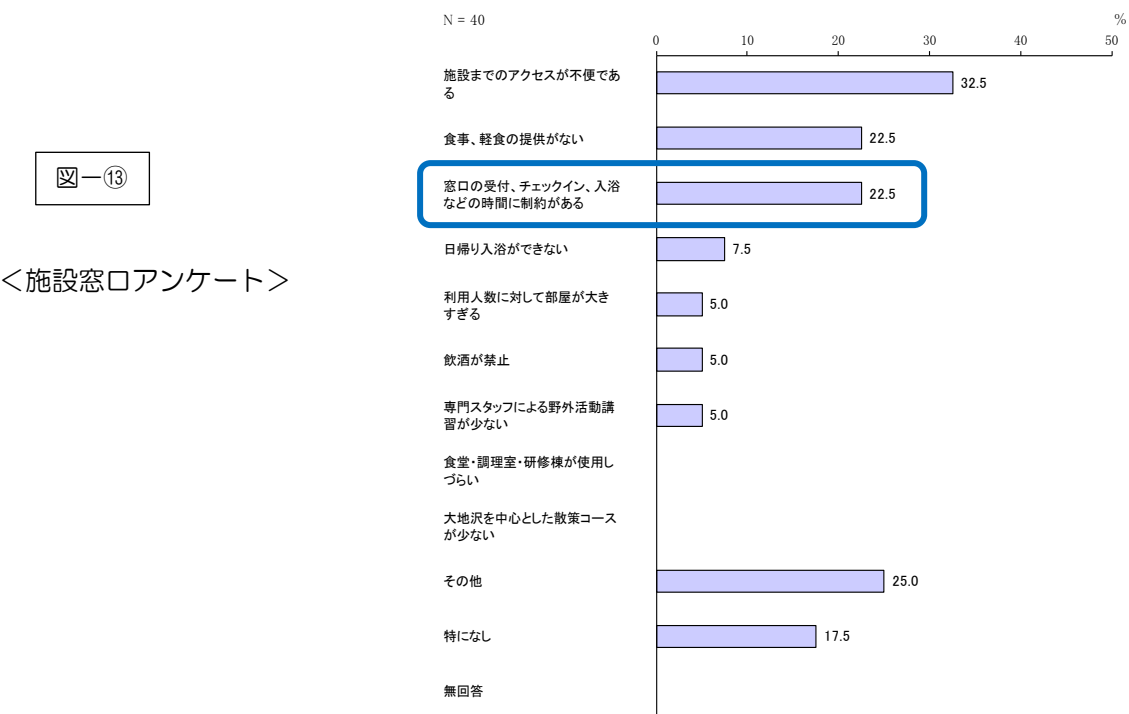
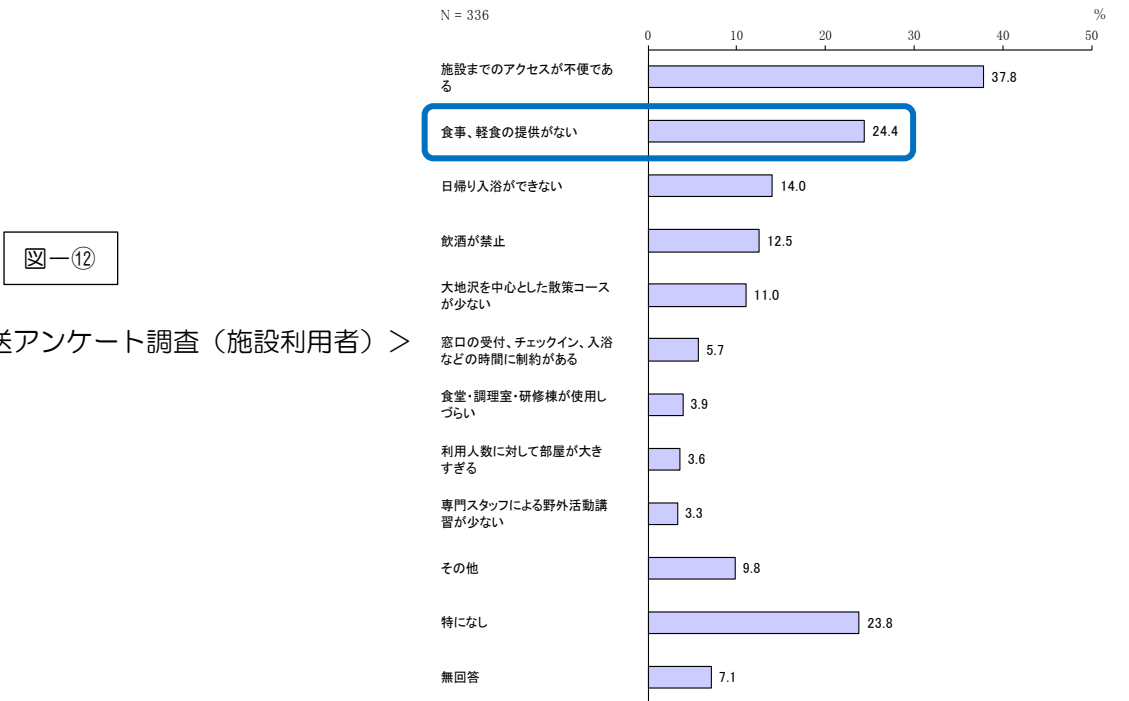


<年齢別>



また、郵送アンケート調査で、施設を利用したことがある人が、利用しづらい点として、アクセスの不便さの次に「食事、軽食の提供がない」(図-12)をあげています。窓口アンケート※1調査(図-13)では、「食事、軽食の提供がない」と同率で「窓口の受付、チェックイン、入浴などの時間に制約がある」があげられています。

【問 10 大地沢青少年センターを利用して、使いづらいと感じるところがあればお聞かせください。(いくつでもお答えください)】



このことから現在の利用者は、食事(食材)の提供や、宿泊などの施設利用が快適に整っていないと、利用を躊躇する傾向にあると考えられます。様々な利用形態・世代に対応できることも、今後の施設運営には必要と考えられます。

さらに、施設を通年利用するためには、閑散期への対応が必要になります。他自治体ヒアリング調査※²（図一⑭）では、各施設ともに利用促進のため、プログラムの充実を図っています。事業展開構想（案）※³（図一⑮）でも提示されているように、施設利用を今後促進するためには、大地沢青少年センターと周辺の魅力を活かした、プログラムや事業展開を用意することが必要と考えられます。

図一⑭ 【他自治体ヒアリング調査（抜粋）】

自治体	東京都	横浜市	尼崎市
施設名	高尾の森わくわくビレッジ	上郷森の家	美方高原自然の家「とちのき村」
受託先	京王ユースプラザ株式会社	株式会社紅梅組グループ	公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会
民間事業者と地域の連携及び協働	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子市教育委員会 ・八王子わくわくfolkloreフェスタ開催 ・高尾の森自然学校(一般財団法人セブンイレブン記念財団)との共同企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンサポーター ・施設内での大島桜管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元農家 ・モンベル ・植村直己冒険館パートナー連携 ・倉本 聡主嘉津宰富良野自然公園との連携 ・大学とキャンプ実習等单位認定コース
民間事業者による利用促進のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・アドベンチャープログラムの実施(企業研修等に活用) ・100種類のプログラムサービスの実施(雨の日でも飽きず過ごせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野鳥の会、日本自然保護協会と連携し、プログラムの拡充を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じたプログラムの提供(PDCAサイクル) ・教員免許状更新講習 ・雪を活用した企画 ・冒険あそび

図一⑮ 【町田市大地沢青少年センター事業展開構想に関する提案（抜粋）】

構想概略

これまでのハード面（施設利用の価値）における利便性の向上、およびソフト面（プログラム内容、事業内容、幼児教育・学校教育への働きかけ）の充実を図ること。

1 継続事業と新規事業

地元資源を再確認し、その資源の有効活用と地域活性化を意識した事業立案。子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方が”集う”場作りを目指す。

- 1、これまでの実績に基づいた主催事業の継続
- 2、新規事業
- 3、地元（町田市相原）の資源を有効活用した事業計画

地元住民が積極的に参画できる仕組み作りと資源の活用。また、地元団体・地元企業・女性組織が積極的に運営に参加できる仕組みづくり。地域を巻き込む事業の展開。

2 施設利用価値の向上

（中略）

4、健康保養地としての発信

運動、食事、メンタルヘルス等、総合的な健康づくりの拠点。特に自然・森林を利用した森林療法・気候療法の開発。

※1 POO「施設窓口アンケート調査結果」参照（調査対象者：2018年8月6日から8月31日までに大地沢青少年センターを利用した個人・団体40組に無作為抽出と同じアンケートを実施）

※2 POO「他自治体ヒアリング調査結果」参照（東京都・横浜市・尼崎市にある大地沢青少年センターと類似施設に運営方法や取組を調査）

※3 POO「町田市大地沢青少年センター事業展開構想に関する提案」参照（公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会による提案）

(2) 地域と連携した魅力づくり

大地沢青少年センターの活性化には、地域資源の活用が必要と考えられます。

他自治体ヒアリング調査(図-14)では、どの団体も地域と連携・協働をしており、郵送アンケート調査(図-10・11)でも、「地元野菜や名産等の直売コーナー」や「てぶらでバーベキュー」などの、地元と連携できる事業の利用希望の割合が高くなっています。さらに、事業展開構想(案)(図-15)でも地元資源を再確認し、その資源の有効活用と地域活性化を意識した事業立案や、地元住民が積極的に参画できる仕組み作りと資源の活用が提示されています。また、地元団体・地元企業などが積極的に運営に参加できる仕組みづくりのような、地域を巻き込む事業の展開も提案しています。

提言 1

皆が利用できる施設であることを、幅広い世代に発信していくことが望ましい。

施設は市内・市外問わず、団体や個人、子どもから大人まで利用されていますが、施設自体の認知度が低いことが分かり、幅広い周知活動を行う必要性が伺えます。また、郵送アンケート調査問 19 の自由記述でも、広報活動についてのご意見を一番多くいただいている状況です。

さらに、現状で施設を利用していない人も、今後、利用する見込みは十分あります。施設利用の促進のためには、大地沢の魅力を効果的に伝えられるよう、幅広く情報の発信をしていくことが望まれます。

提言 2

特色のある事業展開・プログラムの充実を図ることが望ましい。

通年で施設を利用してもらうためには、閑散期に対応できるプログラムや事業展開が必要と考えられます。施設面では食事の提供や冷暖房完備など、快適さと利便性を求められていることから、既存の施設を活かした事業展開と、その上で、大地沢ならではの事業展開・プログラムの充実が望まれます。

また特色を出すにあたっては、郵送アンケート調査問 18 の類似施設の利用で「ひなた村」をあげている人が多くみられますが、「ひなた村」は民間活力を入れ、子どもの活動を主に施設を運営して行くことがすでに決まっています。大地沢青少年センターは、事業展開構想（案）に提示されたように、子どもから大人まで利用できる事業展開・プログラム開発を図り、「ひなた村」との差別化を図ることが望まれます。

提言 3

大地沢青少年センターの魅力を最大限に発揮するために、周辺地域との連携を図ることが望ましい。

他自治体ヒアリング調査や、事業展開構想（案）からも、どの団体も地域と連携・協働をしており、地元との連携や地域の活性化について提案があります。「地元野菜や名産等の直売コーナー」「てぶらでバーベキュー」など、地元とのつながりを深めることができる事業の希望割合が高い状況です。施設は単体で運営を考えるのではなく、地域の中で連携して、どのように活性化につなげていくかを検討していく必要があります。地元資源を最大限活かせる事業展開の検討が望まれます。

提言4

利用者促進を図るため、施設名を変更することが望ましい。

大地沢青少年センターを利用したことがない理由として「青少年以外は利用できないと思っていた」の割合が高く、施設名が利用促進の妨げになっていると思われます。また、郵送アンケート調査の自由記述でも、名称を変更し、大人も楽しめる場所をアピールした方が良いというご意見もいただいております。

一方で、青少年団体の利用が現在も4割あることから、今までの「青少年施設」として子どもの成長を育んできた役割は、プログラムや事業で担保し、施設の設置目的の一つである「市民の福祉増進」の幅を広げ、新たに市民が集う施設として名称・位置づけを変更することが望まれます。

なお、大地沢青少年センターに愛着を持っていただくため、愛称を公募することも有効な手法として考えられます。

提言5

民間活力を導入し、大地沢の魅力を活かした施設運営をすることが望ましい。

今回実施したアンケート調査等から、利用者を増やすためには、幅広い世代に対応できる、多様なサービスの提供が求められています。そのためには、今まで行っていない事業展開を行う必要があります。

民間活力を導入した施設では、専門性を有した職員によるプログラムの充実、民間のノウハウを活かした事業展開や地域・企業などとの連携等により集客力の向上を図っています。民間活力を導入する際の大きな魅力は、そのような今までになかった視点や、新しい事業展開をすることができる点と考えられます。

通年利用してもらえる施設運営をめざして民間活力を導入し、地元資源や大地沢の自然を活かした、幅広い年代に対応するための事業展開や、様々なプログラムを、民間の柔軟さで展開し、大地沢の魅力を伝える施設運営をすることが望まれます。

おわりに

作 成 中